

No 19
30 April 2008

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成20年4月30日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556

PNGに学用品、日用雑貨を寄贈しました!

小川 みき (当協会法人会員)

初めまして。晃和木材株式会社の小川みきと申します。昨年7月「ごらくちよう」でパプアニューギニアに学用品・日用雑貨の寄贈を呼びかけました。それに応えて寄贈してくださった皆様、有難うございました。実は、この呼びかけは私に任された初めての仕事で、毎日緊張しながら応募をお待ちしておりました。幸い、日本・PNG協会会員の方々、住友林業の方々にご寄贈いただき無事現地にお届けすることが出来ました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

当社はニューブリテン島ラバウルからスピードボートで3時間程の所にあるオープンベイ地区で1985年から植林を開始し、現在はその植林木を伐採して日本やベトナムに輸出しています。日本国内では主に合板となり、ベトナムではアウトドア用の家具となって皆様のお手元に届きます。植林作業を担う約1000人の現地の従業員は、植林地(山手線内の面積の約1.8倍の広さ)に近接する居住区に家族と住んでおり、地区内には会社が建設した小学校や教会、交番、病院やマーケットなどがあり小さな町を形成しています。

先日、現地の住民の方々へ寄贈品を配っているところを写した写真が届きましたので紹介します。写っているメッセージは、今回大量に寄贈して下さった当協会会員の岩田亀作さんに向けて書かれたもので、「岩田さん、我々に服を下さしまして有難うございます。服を頂き我々は非常に喜んでます。親切にしてくださった岩田さんに、どうか神の思し召しがありますように!有難うございました」という意味です。岩田さんが第二次大戦中にパプアニューギニアに参戦しておられたことも、駐在員から住民に伝えられています。



こんなにたくさん ありがとう!



岩田さんへ感謝のメッセージを掲げている

この寄贈イベント、7年前から毎年1,2回行われています。例年は弊社の顧客、弊社と関係会社の社員が中心だったのですが、この度初めて当協会会員の方々に寄贈の参加を呼びかけました。個人的な感想ですが、私は参加して下さった方々とお話をする機会もあり楽しかったですし、又、現地の住民の方々が喜んでくださって大変良い仕事をさせて頂いたと思っています。また次回、皆様へ寄贈のお願いをすることがあると思いますが、興味のある方は是非ご協力お願いします。



何が出てくるんだろう??? 興味津々の子どもたち



ありがとう! 僕たち、私たち うれしいよ~!

カザリシロチョウ

古谷 俊爾 (JICA-SV/当協会会員)



カザリシロチョウ

写真の左上の白蝶を見て頂きたい。羽を開いて上から見た写真だが、全体白地に黒の帯が走るだけの地味な容姿だ。ところが裏返して見ると、赤あり黒あり黄色あり、紋様も千変万化だ。これらは、「カザリシロチョウ」と呼ばれる仲間で、ニューギニア島中央高地を中心に60種類以上の棲息が知られている。限られた地域にこれだけの種類が“多産”する土地は地球上稀である。

筆者はJICAのシニアボランティアとして03年にPNG環境保全省(DEC)に派遣された。DECに出入りする外国人といえどオーストラリア人が殆どの環境下で日本人は珍しかったのだろうか、環境団体、国連職員、大学関係者等幅広い知己を得た。その一人だが、04年7月、ジャクソン空港近くのホテルで一人の女性言語学者と出会った。女史は著名な財団から研究費を得てPNG高地で現在なお日常語として使われてる500を越す部族の言葉を研究していると言う。ホテル中2階の喫茶室で寛いだ雰囲気雑談が始まった。が、筆者がカザリシロチョウの話に触れると、突然、機関銃の如く質問が発射され、更に話が進むにつれ、証拠が見たいと筆者の宿であるホリデイ・インまで

乗り込んで来た。彼女はカザリシロチョウ図鑑に描かれた棲息分布線をメモすると共に、筆者のマウントハーゲン産の標本をデジカメに収めて帰って行った。

何故かくも多くの種類に限られた地域にひしめて棲息するのか？ 神をも恐れぬ独断と偏見を事前にお断りしておくが、ヒントのひとつが“谷”である。ニューギニア島の谷は深い。ゴロカ、マウントハーゲン間を小型機で飛ぶと、3千メートルから4千メートル

級の山脈が縦横に走り、次々と眼下に現れる谷筋は晴天下でも黒々として底知れない。

飛翔能力に限界のある蝶は谷を越せない。孤立した蝶は、同様に孤立した食草である宿木(ヤドリギ)のローカル化で、例えば、従来の代用食草が主食と化したり、或は、たまたまA谷から風に飛ばされた個体が首尾よくB谷の個体と結ばれたりして、数千年から数万年の時間が経過した結果、裏面後翅にあのピカソ的芸術を創造したのだ。

女史も“谷”に依ってハイランド部族言語はグループ分け出来ると言っていた。その後、数ヶ月に一度くらいか、メールのやりとりが続いたが、05年春に忽然と音信が途絶えた。不幸にも、筆者もパソコンを床に落とし、瞬時にしてデータを消した時でもあった。耳に残った彼女の財団へ問い合わせたが杳として行方不明である。カザリシロチョウが女史の学究に多少とも役立ったのなら嬉しいのだが……。

現代の東京を披露

Irene GASHU

(賀集・イレーネ 当協会理事)

2007年10月3日、ヨギ・バランパタズ元PNG大使館公使夫人より依頼を受け、ポートモレスビーにあるセント・ジョセフ・インターナショナル・カトリック・スクールで「現代の東京」について、トークとスライドショーを行いました。当日は、13歳から15歳の生徒50人が参加し、ニッキー・ノンブリ元PNG大使夫人と日本国大使館の泉川直仁二等書記官もご出席くださいました。



皇居、浅草、銀座、六本木など東京を代表する場所を紹介し、門松、雛人形、こいのぼり、三社祭、阿波踊りなど日本の文化にも触れました。また、春の桜、秋の紅葉は、四季の変化が乏しいPNGの子供たちにとって美しい絵のように映ったようです。今風なところでは、デパートのトイレ、映画館、銀行、15分で100円(2.5Kina)の駐車場などが子供たちの興味をひきました。



ノンブリ夫人手作りの花束

日本国大使館からポスター5枚をいただき、Explore Japanという英語のパンフレットと消しゴムつき鉛筆が子供たちに配られました。さいごにノンブリ元PNG大使夫人から手作りの花束をいただきました。

子供たちは目を輝かせ、とても礼儀正しく私の話を聞いてくれました。各教室のドアに担任の先生の名前が書かれた看板が付いていたことも印象的でした。

以前よりバランパタズ元PNG大使館公使夫人がこの学校で英語とインドネシア語を教えていらっしゃるご縁で、今回このような機会に恵まれました。この場をお借りして、夫人に御礼申し上げます。



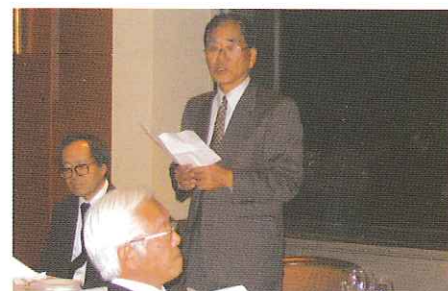
バランパタズ夫人(右)と私



西山大使のご挨拶

西山肇 新駐PNG日本大使PNGへ

2008年3月10日、霞山会館(東京都千代田区)のレストランにて、西山肇 新駐PNG日本大使の壮行会が執り行われました。西山新大使は、4月1日付けで、駐PNG日本大使館にご着任されることとなり、PNGへ発たれるにあたり、当協会理事有志が会費制で壮行会をひらきたいという発案から会がもたれました。



山下会長よりお祝いの言葉



堀江顧問からのお言葉

会は終始なごやかに進み、当協会の法人、大学、個人の各理事の方々は、西山新大使とともにPNGの発展、PNGと日本の友好促進そして我々の発展のために力を尽くそうと熱く語り合いました。最後になりましたが、ご多忙の中、また会費制であるにもかかわらず、多くの理事の方が気持ちよく参加してくださいました。この場をおかりして、深く御礼申し上げます。

また、西山新大使、PNGではお体にお気をつけて、そして当協会のことを頭の片すみにおいていただき(笑)ご勤務がんばってください!

壮行会では、西山新大使よりスピーチをいただきましたが、そのお話によりますと、西山新大使のPNG勤務は実は今回2度目であり、そのようなケースは非常に珍しいということでした。ですから、PNGとなにか深い縁のようなものを感じており、今回のご勤務は喜びと期待に胸ふくらませていらっしゃるそうです。

日本・パプアニューギニア協会
法人会員紹介 第12回

「みなさん、こんにちは。」

「株式会社 日本墓苑開発センターです。」

〒195-0051 東京都町田市
真光寺町337番地16
TEL042-736-2233
FAX042-735-6289

皆さん、こんにちは。

(株)日本墓苑開発センターと申します。現在、東京都町田市において「町田いずみ浄苑・フォレストパーク」という名称の公園墓地の開発運営管理受託を行っている会社です。

「町田いずみ浄苑」のある真光寺地区は、鶴見川の支流である真光寺川の源流にあたる地域で、緑の多く残った情緒ある地域です。中でも「町田いずみ浄苑」の北側にある布田道(ふだみち)は新撰組の近藤勇らが小野路宿の小島道場(現:小島資料館)に師範として通ったといわれる尾根道として有名です。道幅は狭く、落ち葉、笹竹が生い茂り、まさに時代をタイムスリップした感じが味わえます。

2004年には、日本で初めて、亡くなった最愛のペットと飼い主と一緒に埋葬と供養ができる「ウィズペット」という名のお墓がフォレストパーク内に誕生しました。

また、2005年には、首都圏の公園墓地では初めて、桜の木を墓標としてその下にとともに眠る樹木葬墓地「エンディングセンター桜葬墓地・en21」が誕生し多くの皆様からご支持を得ています。

PNGとの出会いは、当社の代表が所属する「東京町田クレインライオンズクラブ」の結成10周年記念事業として「誰でも平等に教育を」をモットーに、2002年にシンプ州コゲ村において学

校建設の支援事業を行ったことから始まりました。その後、毎年PNGを訪れ、コゲ村の子供達に教育の機会を得てもらう為に、さまざまな奉仕活動を続けています。

2007年には二人のPNGの青年を招いて、当苑ならびにライオンズメンバーの事業所訪問、武相マラソン(町田市)に参加してもらい、これからも変わらぬ友情を分かち合いました。

これからも、東京町田クレインライオンズクラブともどもPNG政府、ならびにコゲ村の子供達の皆様とPNGの発展のため微力ながら活動をしていきたいと思っています。

<http://www.izumijouen.co.jp/>



大勢のコゲ村の人々との記念撮影

事務局からのお知らせ

平成20年度

継続会費納入のお願い

継続ご希望の方は、同封の郵便局払込取扱票、もしくは銀行振り込みにてお願いいたします。今年度から銀行振り込みも可能にしました。

今号から全ページカラーに

「ごらくちょう」のデザイン印刷を快く引き受けてくださっている当協会会員の賀部祥史さまのご尽力で、今号から全ページがカラーになります。賀部さま、ありがとう

ございました!

「こころの写真展」大成功!

当協会会員の酒光幸子さまが、4月1日～14日、福井県平和祈念館にて「こころの写真展」を開かれました。展示された写真は、96年から計8回にわたって慰霊で訪れた際にPNGで撮ったもの約50点。開催中は、来展されたご遺族の方と、長年かけて調べても分からなかった戦死場所を福井県の名簿をつかって一緒にさがしてさしあげた。場所が判明して、ご遺族の方の顔が晴れ晴れとした。そのことが一番嬉しかった、と酒光さまは語っていただきました。

東京では、5月20日～22日、エステック情報ビル・クリスタルスポット(西新宿TEL 03-3342-3558)で開催されます。

ぜひ、足を運んでいただき、戦争の悲惨さ、遺骨収集の実態を知っていただければ、と思います。

編集後記

パプアニューギニアの子供たちは、目がキラキラしていてかわいいなあ。いつもそう思います。いつまでも輝いていてね。そして、私たちも輝きましょう!

(佐藤直子)

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お問い合わせの方にぜひお声をかけて下さい。
*会員数 2008年3月末 法人会員/18 個人会員/86

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。
年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 PNG人 1,000円
会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

口座加入 / 番号 00140-2-277582
記者名 / 日本・パプアニューギニア協会
先着 / 日本・パプアニューギニア協会 事務局
〒102-0074
東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階
(ニューギニア航空 日本支社内)
電話:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556
E-mail:info@air-niugini.co.jp